

日本風景街道だより

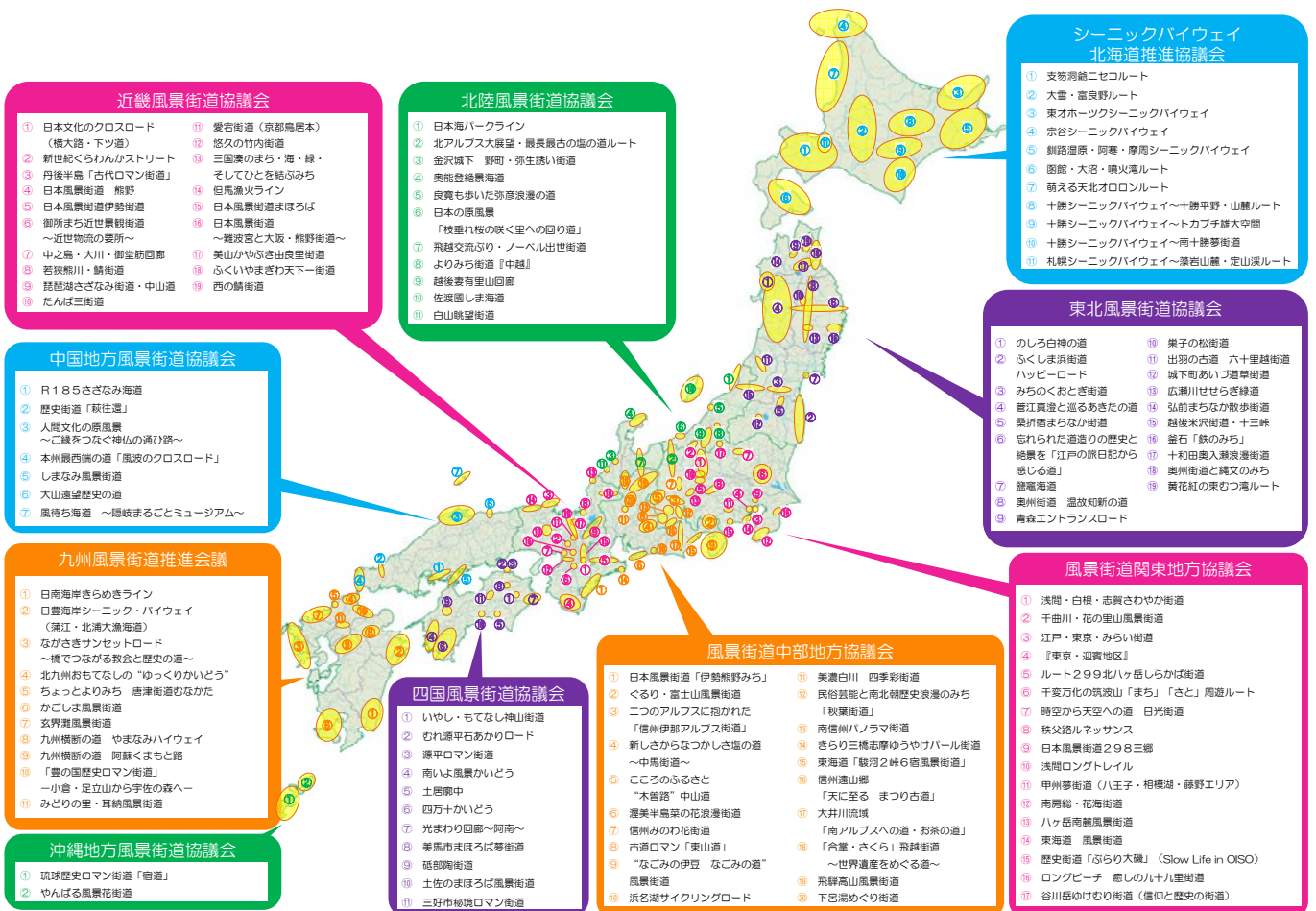
2012年秋 Vol. 21

全国で128の風景街道が登録

これまでに全国で128の風景街道が登録されました(平成24年8月末現在)。

登録された各風景街道の概要は、日本風景街道ホームページ

(<http://www.mlit.go.jp/road/sisaku/fukeikaidou/index.html>)、もしくは各風景街道地方協議会ホームページで閲覧することができます。



シリーズ:各地域の風景街道の取り組み

東海道 風景街道の取り組み

ルート名：東海道 風景街道

1. ルートの概要

徳川家康が西暦1601年、東海道の宿駅伝馬制度を定め、本格的な街道の整備を始めてから、400年以上の歴史を刻む東海道。東海道風景街道は、国道1号を中心とした旧東海道のうち、宿場の置かれていた横浜市内の神奈川宿、保土ヶ谷宿、戸塚宿の3宿を活動範囲(横浜市内「鶴見区・神奈川区・西区・保土ヶ谷区・戸塚区」の延長約22km)とし、その沿道に存する一里塚、本陣跡、神社仏閣など多数の歴史的施設など、道路を中心として広がる空間的な資源を活用し、地域の活性化に取り組んでいます。

そこで長年に渡り“歴史を活かしたまちづくり”活動(歴史施設や町並みの整備・再創造、講演、案内ガイド、ウォークイベントなど)に取り組んできた“人材”そのものを大切な地域資源としてとらえ、経験・体験・ノウハウを活かした地域密着の活動により、地域の方々がそれぞれに持つ、心の中に広がる風景を資源として育て、将来は東海道全域に“歩く旅人のため”の活動を広げることにより、「まちを思う気持ち」をそれぞれの地域に育むことで、活動の持続的な発展を目指しています。



東海道風景街道の活動範囲



復元された一里塚・松並木



地域のイベントの様子

2. 最近の活動

東海道風景街道では、地域の方々や各ボランティア団体、企業等と連携したウォーキングイベントや、パネル展を実施するとともに、毎年開催されている宿場祭りや区民祭りでの子供塗り絵ブースの開設、銭湯探訪など、東海道にちなんだ様々な取り組みを実施しています。

今回は、最近実施しましたウォーキングイベントとパネル展について、紹介します。

平成22年度は、JR東日本などと連携して「駅からハイキング」実施しました。箱根駅伝の往路2区(復路9区)を歩くイベントで、江戸時代に栄えた保土ヶ谷宿の魅力を knowing 賞おうと保土ヶ谷駅西口商店街や横浜読売会などと主催しました。約2,000名の参加者は、JR保土ヶ谷駅を出発し、箱根駅伝の「花の2区」として知られる国道1号沿いや旧東海道の「権太坂」を通して同駅まで戻る約8kmのコースを歩き、各所の史跡を巡りながら、その説明や宿場そば、甘酒など地域のおもてなしを楽しんで頂きました。

本イベントを通して、他団体との交流が生じ、またそのことが評価され、平成23年度風景街道関東協議会の関東年間優秀活動賞を受賞しました。



境木の由来の説明「武蔵国と相模国の境」



「甘酒」を振る舞っている様子



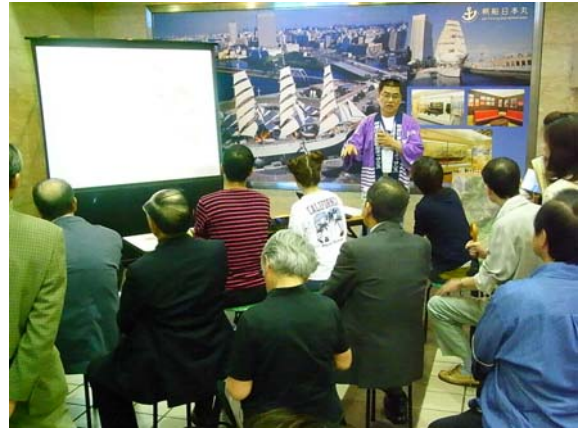
関東年間優秀活動賞表彰式の様子
(保土ヶ谷宿旧東海道にて)

平成23年度は、開港以前から江戸時代「神奈川宿」「保土ヶ谷宿」「戸塚宿」の東海道三宿場を擁する歴史情緒溢れる街「横浜」の歴史を知って貰い、街への愛着を深めて賞おうと、『ハマの東海道 今昔物語 東海道五十三次 浮世絵パネル&ジオラマ&スライド展』を開催しました。

横浜駅そごう前広場にて、幕末期には広重を始め、多くの浮世絵や絵図に描かれたこの「ハマの東海道」を、浮世絵パネルや歴史研究団体が製作したジオラマ、また、幕末から現代までの写真をスライド映写し、「ハマの東海道」の今昔を振り返りました。多くの通行者が足を止め、興味深く、浮世絵や写真を見ながら説明者の話を聞いて行かれました。来場者の中には、昔の写真を見ながら当時の様子を語っていく方や、浮世絵の風景と現在の風景とを比較した説明に何度も質問して行く方などがいて、横浜の東海道への関心度の高さが感じられたイベントとなりました。



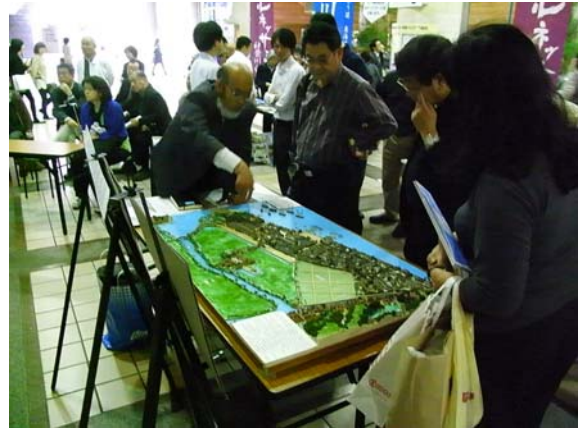
イベント会場全景



スライドショーの実施状況



展示物(浮世絵パネル)



展示物(ジオラマ)

3. 今後の取り組み

これまで実施してきたイベントの経験や人脈を活かし、継続的で持続可能な地域密着型の取り組みとして、平成23年度から通行手形ウォーキングイベントを実施しています。

同イベントは、参加者に「東海道よこはま三宿ウォーキング通行手形」を購入して頂き、その通行手形により沿道の店舗等でサービスを受けながら、神奈川～保土ヶ谷～戸塚の旧宿場を結ぶ東海道を地域の人々と交流しながら楽しく歩いてもらうというものです。横浜の東海道を誰でも迷わずに、街を楽しみながら歩くことができるように、また、住んでいる方々に愛される東海道になるよう、そして街を愛する方々が増えるようにという思いで取り組んでいます。収益を見込めるにはまだまだな状況ですが、地域では徐々に認知され参加店舗が増えてきています。将来的には収益を、東海道のサインなどに活用できるようにしていきたいと考えています。

見本

東海道よこはま三宿 ウォーキング 通行手形 500円

平成23年10月1日から11月30日まで有効
発行：東海道 風景街道

通行手形の使い方

①→②の店での通行手形を有効期間内に提示すると、サービスが受けられます。順に③→④、⑤の方向に移動し、知らない宿場の小さな家屋を覗いてください。

東海道 風景街道とは

国土交通省の「日本風景街道」の第16号に登録された「東海道 風景街道」です。

「東海道 風景街道」は、横浜の宿場から東海道を遡り、また、まちを歩くと、自分自身で歩けるようになる歩道を目標としています。

自分自身で歩けるようになる東海道になるよう、そしてまちを愛する方々が増えるように小さな活動ですが、未来へ種をまき続けたいと思います。

東海道 風景街道は、市民活動団体・商店街・地域のみならず、事業者・産商官等（国土交通省横浜国道事務所）や行政（横浜市都市計画部都市デザイン室・神奈川区役所・西区役所・保土ヶ谷区役所・戸塚区役所）など、主幹に賛同していただき、多くの方々の参加・協力を得て活動しています。

スタンプラリー

スタンプは、右に記載の3箇所のスタンプと、横浜由緒史博物館で押してください。

スタンプが9箇所集まったら（横浜由緒史博物館は2箇所分はカウント）、**参加店舗**で製品を買い上げます。

スタンプを押す期間は、平成23年10月1日から11月30日まで、

製品を買い上げる期間は、平成23年10月1日から12月10日まで、

横浜市歴史博物館のスタンプは、2箇所分としてカウントします。

<p>① 横浜市歴史博物館</p> <p>〒220-8501 横浜市中区山下1-1-1 10月1日～11月23日 東海道歴土+宿場開闢展</p>	<p>② 横浜由緒史博物館</p> <p>〒220-8501 横浜市中区山下1-1-1 10月1日～11月23日 東海道歴土+宿場開闢展</p>	<p>③ 横浜由緒史博物館</p> <p>〒220-8501 横浜市中区山下1-1-1 10月1日～11月23日 東海道歴土+宿場開闢展</p>	<p>④ 横浜由緒史博物館</p> <p>〒220-8501 横浜市中区山下1-1-1 10月1日～11月23日 東海道歴土+宿場開闢展</p>
--	--	--	--

主催 東海道 風景街道
横浜由緒史博物館
横浜由緒史博物館

協賛 キリンビレッジ株式会社
コクサ株式会社
株式会社三陽物産
株式会社森田商事
イノベーションセンター（横浜観光局）

① 横浜市神奈川地区センター

〒220-8501 横浜市中区山下1-1-1
TEL: 045-431-5300
休館日 第2月曜
開館時間 9時～21時
【休館】祝日(11月27日まで)

サービス
①～④ 開館時間内
【配布】神奈川地区センター
【配布】横浜由緒史博物館

② 横浜由緒史博物館

〒220-8501 横浜市中区山下1-1-1
TEL: 045-431-5300
休館日 第2月曜
開館時間 9時～21時
【休館】祝日(11月27日まで)

サービス
①～④ 開館時間内

③ 横浜由緒史博物館

〒220-8501 横浜市中区山下1-1-1
TEL: 045-431-5300
休館日 第2月曜
開館時間 9時～21時
【休館】祝日(11月27日まで)

サービス
①～④ 開館時間内

④ 横浜由緒史博物館

〒220-8501 横浜市中区山下1-1-1
TEL: 045-431-5300
休館日 第2月曜
開館時間 9時～21時
【休館】祝日(11月27日まで)

サービス
①～④ 開館時間内

東海道歩きを楽しんでください

東海道よこはま三宿ウォーキング通行手形

4. おわりに

「東海道」は、歴史を動かした「時代が呼んだ歴史の人々」が歩いた街道であり、市井の人々の生活を日々支えていた街道でもあります。

私達は、横浜の東海道で、現代の旅人を地域の方々とお出迎えをし、おもてなしを次の宿場へ繋げて、そして、未来の世代へこの気持ちを繋げたいと活動をしています。

「日本風景街道」(シーニックバイウェイ)の理念を大切にして、できる範囲で、無理をせずに地域の方々と一緒に、息の長い活動を目指したいと思います。

< 執筆者 >

東海道 風景街道 事務局 湯川 厚子

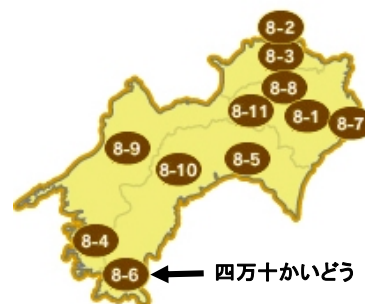
シリーズ:各地域の風景街道の取り組み

四国風景街道 四万十かいどうの取り組み

ルート名：四万十かいどう

1. ルートの概要

「四万十かいどう推進協議会大月支部」は、高知県西部地域の商工団体や住民グループ、行政などで組織された「四万十かいどう推進協議会」の支部組織として、平成19年9月に発足しました。地域に、今ある資源を活かした観光による地域振興を目指して活動を展開しています。



四万十かいどうの位置

2. 活動の紹介

当支部の主な活動には「月光桜のライトアップと夜桜音楽会」、「牧野富太郎の道を歩く」、そして今年から始まった「大月コスモス街道」があります。

(1) 月光桜のライトアップと夜桜音楽会

「月光桜」は、植物分類学者の牧野富太郎博士が生前に研究し、この地域に特に多く分布していることから「アシズリザクラ」と命名しようとしていた白いヤマザクラではないかと言われています。当支部では、平成17年から地元長沢地区の住民と供にこの桜の保存活動を始め、平成19年からはライトアップと夜桜音楽会を開催しています。夜桜音楽会では、毎年、地元小学生の描いた灯ろうの点灯や、中学校吹奏楽部の演奏、ママさんコーラスをはじめ、出演者にはボランティアで演奏をお願いするなど、手作りの音楽会を心がけ、多くの観客を楽しませています。



ライトアップされた月光桜



ママさんコーラス



バイオリン、チェロ、ピアノ演奏



小学生作成の灯ろうによる音楽会会場への誘導



灯ろう



さあ、みんなで点灯

(2) 牧野富太郎の道を歩く

今年は牧野富太郎生誕150年にあたり、各地で様々な記念行事が取り組まれています。

明治14年と同18年、当時19と21歳であった牧野富太郎が初めての長期採集旅行先を選んだのが高知県西南地域です。当協議会では、平成20年に、当時の日記やスケッチを基にこれらの旧道を調査復元し、トレッキングコースを整備しました。今では毎年春と秋に、植物観察しながら当時と同じ山歩きを追体験する「牧野富太郎の道を歩く」イベントを開催しており、昼食に出される郷土料理と共に、大好評を得ています。



牧野太郎博士が通った観察の道で
巨樹の説明を聞く



児童を見守ってきた
大きなセンダンの木が出発地(小学校跡)



昼食時のひととき



郷土料理のふるまい

(3) 大月コスモス街道

一昨年まで開催されていた「大月コスモスまつり」の後を受け、今年からは、町内数か所の休耕田や畑に、各地域のみなさんとの協働作業によりコスモスとヒマワリを植え「大月コスモス街道」として開催しています。作付面積は合計で約10ヘクタール。10月中旬から11月中旬までの長期間にわたって花を楽しむことができます。



ヒマワリ畑で記念撮影



咲き乱れるコスモス

3. 今後の目標

今後も、当協議会大月支部では、花や植物、牧野富太郎をテーマにし、今ある地域資源を活かした官民協働の地域づくりを進める事によって、四国西南地域への誘客を図り、地域の活性化に貢献する取り組みを進めていきます。

< 執筆者 >

四万十かいどう推進協議会大月支部事務局 大月町商工会 町田 南州男

風景街道サミット in あさま

～心をつなぐ地域づくり 浅間・白根・志賀さわやか街道～

浅間・白根・志賀さわやか街道協議会

「風景街道サミットinあさま」は、浅間・白根・志賀さわやか街道協議会の主催により10月25日(木)、26日(金)に約250名の参加者を迎え開催しました。今回の取り組みは、全国サミットの主旨を全国各ブロック協議会にご理解いただき、各ルートへの情報提供や声かけのご協力により、構想から約1年の準備期間を経て開催することが出来ました。また、当さわやか街道構成員の地域活動団体・NPO法人・民間企業・関係町村や県・国で組織したサミット準備会により、全員が一丸となり全国初のサミット開催を実現することが出来ました。

25日の第1部では、群馬県吾妻郡嬭恋村にある東海大学嬭恋高原研修センターにおいて、シンポジウムを開催しました。基調講演では、筑波大学の石田東生教授から「風景・みち・協働」と題し、まち・人・経済が元気になることを目指す風景街道の試みとその成果、今後の方向性や課題についてご講演頂きました。

続いて「のしろ白神の道」(秋田県)、「風待ち海道」(島根県)、「浅間・白根・志賀さわやか街道」(群馬県・長野県)から活動事例が紹介され、各街道の特徴ある取り組み等が発表されました。

パネルディスカッションでは、当街道協議会委員のNPO法人理事長の横島庄治氏がコーディネーターを務め、石田東生教授、「旅の手帖」編集長の矢口正子氏、地元活動家「おちょんきねっと」代表の松本もとみ氏をパネリストに迎え、「風景街道の観光力を磨こう」と題し、[発掘] [連携] [発信]のテーマ毎に意見交換が行われ、有識者からの意見や全国10ブロック代表者の活動状況や想い、人員不足や資金確保といった共通課題について、参加者は活発な議論に耳を傾けていました。



基調講演



パネルディスカッション

第2部は会場を草津温泉の草津白根観光ホテル櫻井に移して、大澤正明群馬県知事や前川秀和国土交通省道路局長を来賓に迎え約170名が参加し交流会を開催しました。交流会では、参加者おのこの積極的な情報交換と交流が行われ、風景街道の取り組みへの熱意と意識の高さを感じました。



交流会の様子

翌26日は、浅間・白根・志賀さわやか街道の地域資源スポットを厳選した3コースで約70名が参加し現地視察が行われました。当日は天候にも恵まれ爽やかな秋空の下でルートの魅力や取り組みを紹介し、互いの苦労話や意見を交わし、次の再会を誓い合いサミットは無事終了いたしました。

全国の日本風景街道の関係者が一堂に会し、最新の動向を共有し議論する貴重な機会となりました。ご講演をいただいた皆様や、全国から参加いただいたパートナーシップの皆様、企画・運営にご協力いただいた関係者に深く感謝申し上げます。今回の全国サミットでの経験をもとに、当街道でも「さらなる質の向上」や「息の長い運動」に努力していきたいと思っております。

今回は「日本風景街道だより」の紙面をお借りし概要報告をさせて頂きました。また、今回のサミットの成果を皆様と共有するため、発表内容や意見交換等の詳細について改めて別の機会にご報告したいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



浅間山(嬬恋村)



一沼(山ノ内町)



湯畑(草津町)



チャツボミゴケ(中之条町)



軽井沢ショー記念礼拝堂
(軽井沢町)



魚止めの滝(長野原町)

浅間・白根・志賀さわやか街道 地域資源スポット

シリーズ：社会資本整備総合交付金等の活用事例

神秘の湖と四季を彩る奥入瀬へ誘(いざな)う浪漫的道

ルート名：十和田奥入瀬浪漫街道
(青森県十和田市・七戸町・六戸町・おいらせ町)

1. 十和田奥入瀬浪漫街道の概要

十和田奥入瀬浪漫街道は、青森県屈指の観光地である十和田湖・奥入瀬溪流への玄関口「東北新幹線七戸十和田駅」を起点として国道4号、45号、102号、394号を含む総延長約120kmのルートです。

松と桜並木の十和田市官庁街通り(日本の道100選のひとつ)、館野公園の二千本の桜と水辺風景、八甲田連峰や八幡岳の雄大な山々の眺望、広々とした田園風景などの豊かな景観資源に恵まれています。

また、毎年5月には一面のツツジに覆われる天王神社、十和田市立新渡戸記念館や十和田市現代美術館、奥入瀬川の河川敷で行われる鮭まつりなどの歴史・文化資源があります。

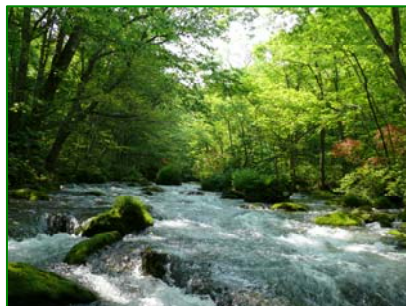
十和田湖・奥入瀬溪流の自然が織りなす美しい景観をより惹きたて、豊かな自然の恵みによって得られる食や温泉、自然体験を通じた癒しの時間を誰もが風景の感動とともに味わえる街道づくりを目指しています。



風景街道ルートと地域資源



十和田湖



奥入瀬溪流



つつじまつり(天王神社)

2. 十和田奥入瀬浪漫街道の活動

十和田奥入瀬浪漫街道は、平成21年12月に登録され、ルートのビューポイントの選定・整備や美しい道づくりのための草花の植栽活動を展開し、誰もが風景の感動を味わえるルートづくりを目指しています。

全国からいらっしゃる観光客の皆さんに美しい風景を楽しんでいただけるよう、ルート沿いのゴミ拾い、花植え等などを行っております。また、国道102号沿線の2ヶ所をビューポイントとして整備、休憩、写真撮影などをするための駐車帯を計画、道路管理者である青森県上北地域県民局のご協力の下、景観阻害木を伐採し、整備していただきました。

そのほか、観光ガイドをするための資格取得に向け、「十和田奥入瀬浪漫街道ガイド養成講座」の開設、当ルート周辺で日本風景街道に登録されている「奥州街道と縄文のみち」、「黄花紅の東むつ湾ルート」の皆さんと連携し『日本風景街道セミナー』を開催しパネルディスカッション・意見交換を行うなどの取り組みを行っています。



景観阻害木の伐採作業



日本風景街道セミナー

3. 奥入瀬溪流エコロードフェスタ

紅葉シーズンの奥入瀬溪流は多くの観光客でにぎわいます。全国の29の国立公園の中で、唯一、最も保全基準の厳しい特別保護区の核心部を国道が通過しています。溪流沿いの国道102号は、もともと地域の生活道や産業道路としての機能を担っており、排気ガスや騒音、渋滞の発生により、溪流環境が損なわれています。

このため、『奥入瀬溪流』の自然環境保全に資する活動を官民一体となって推進することを趣旨として、平成20年から『奥入瀬溪流エコツーリズムプロジェクト』が展開されており、秋の週末2日間に、国道102号奥入瀬溪流区間(惣辺交差点～子ノ口交差点)約

10kmでのマイカーの交通規制、自然環境保全に資する活動を行っています。

この取り組みには、社会資本整備総合交付金を活用しており、奥入瀬溪流沿いを通る国道を安全に迂回する「青楓山バイパス」整備の基幹事業にあわせ、効果促進事業として、遊歩道のバリアフリー化、危険木等に対する安全対策、マイカー交通規制を実施し、道路利用環境、公園利用環境の改善を図っております。

平成24年度においても、「奥入瀬溪流エコロードフェスタ」として、10月27日(土)～28日(日)にマイカーの交通規制(社会資本整備総合交付金)を実施し、あわせて、規制区間と駐車場を結ぶシャトルバスの運行、ウォークイベント、高校生によるボランティアガイド、電気バスの試乗会などが行われました。



観光シーズンにおける激しい渋滞



マイカー規制を行い自転車も快適に走行



高校生によるボランティアガイド



溪流をゆっくり散策



環境に優しい電気バス

4. さいごに

平成23年度に実施したマイカー規制について、アンケートを実施したところ、約75%の方が、「マイカー規制は必要」であるとし、また、約78%の方が、「規制時に訪問したい」との回答をしています。

この取り組みを通し、訪れる観光客や青森県民に自然環境保全の理解を深めていただき、自然環境の持続的な保全と、地域振興・観光振興を図り、奥入瀬溪流の自然価値の向上と、奥入瀬溪流本来の魅力を全国に発信して参りたいと思います。

風景街道地方協議会及び連絡窓口はこちらへ

風景街道の活動を積極的に支援するために、各風景街道地方協議会に連絡窓口を設置しております。
日本風景街道に関するご相談等がございましたら、風景街道地方協議会の連絡窓口までご連絡下さい。

◆風景街道地方協議会の連絡窓口一覧

担当部署	担当者氏名	電話番号
シーニックバイウェイ北海道推進協議会 (北海道開発局 建設部 道路計画課 内)	畑山 朗	011-709-2311(代表) (内線 5845)
東北風景街道協議会 (東北地方整備局 道路部 道路計画第二課 内)	宍戸 英雄	022-225-2171(代表) (内線 4256)
風景街道関東地方協議会 (関東地方整備局 道路部 道路計画第二課 内)	吉沢 仁	048-601-3151(代表) (内線 4252)
北陸 風景街道協議会 (北陸地方整備局 道路部 道路計画課 内)	遠藤 正樹	025-280-8880(代表) (内線 4213)
風景街道中部地方協議会 (中部地方整備局 道路部 計画調整課 内)	服部 一宏	052-953-8171(代表) (内線 4312)
近畿風景街道協議会 (近畿地方整備局 道路部 地域道路課 内)	田島 祐介	06-6942-1141(代表) (内線 4612)
中国地方風景街道協議会 (中国地方整備局 道路部 地域道路課 内)	妹尾 圭人	082-221-9231(代表) (内線 4613)
四国風景街道協議会 (四国地方整備局 道路部 地域道路課 内)	渡辺 修身	087-851-8061(代表) (内線 4612)
九州風景街道推進会議 (九州地方整備局 道路部 道路計画第二課 内)	鈴木 昭人	092-471-6331(代表) (内線 4252)
沖縄地方風景街道協議会 (沖縄総合事務局 開発建設部 道路建設課 内)	末光 勇次	098-866-1914(代表) (内線 4353)

【ご意見お寄せください】

日本風景街道だよりは、地域の皆様へ様々な情報を提供することを目的に年4回程度発行する予定にしています。掲載内容などご意見・ご感想がございましたら、下記までお気軽にお寄せください。

日本風景街道だより

発行：国土交通省道路局環境安全課道路環境調査室
東京都千代田区霞が関2-1-3
TEL: 03-5253-8497 FAX: 03-5253-1622

<http://www.mlit.go.jp/road/sisaku/fukeikaidou/index.html>